



新聞で
読解力アップ!

ワークシート

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしましょう。

海中でスクリー音や呼吸音探知

ナマコ密漁防止へセンサー

増毛漁協が試験運用

【増毛】増毛漁協は船のスクリー音やダイバーの呼吸音を判別して密漁者の存在を知らせる水中音響センサーの試験運用を始めた。増毛沿岸のナマコ密漁被害は年間5千万円に上るとされ、被害の軽減が期待される。

(吉川幹弘)

センサーは沖電気工業（東京）が開発。海中に設置したセンサーが、船のスクリー音やエンジンなどの音を集めてインターネット上の「クラウドサーバー」にデータを送信。音をコンピュータが分析し、密漁者と判断した瞬間、漁協の担当者らに自動でメールを送る。

増毛漁港では2018年冬と19年夏の2回、このセンサーのテスト機を沈め、各2〜3週間、実証実験を行った。今回は商品化に向けた最終段階との位置づけで、5日から21年3月末まで増毛漁協が試験運用する。ただ、商品化されても

1台1千万円超ともみられ、増毛漁協は導入の可否を慎重に検討する。

「認知しているだけでも

年間4、5回は盗まれていた。増毛漁協の忠鉢武参事によると、密漁は、盗まれた翌朝、計19台設置され

増毛漁協では年間700

た防犯カメラの映像を確認して初めて分かる。港の岸壁などにナマコが転がっていたり、タイヤの跡を見つけたら異変に気づくという。

留萌署や留萌海保によ

と、密漁の摘発は現行犯逮

捕が基本。犯行は潜り役の

ほか見張り役などがグル

プで夜中に繰り返すため、

摘発は困難を極める。月に

2、3件ほど、通報を受け

て海岸沿いにいる人物に職

務質問を行うが、多くは逮

捕に至っていない。



密漁監視システムのイメージ

クラウドサーバーへデータを送信
スクリー音やエンジンの音
呼吸音
水中音響センサー
データを分析して不審者情報を通知

『北海道新聞』2020年8月20日（木）朝刊（留萌・宗谷版）

(1) とありますが、センサーを使った監視のしくみを、簡単に説明しなさい。

(2) センサーを使った監視は、これまでの摘発方法にくらべてどのような利点がありますか。考えて1つ書きなさい。

(3) とありますが、商品化されたセンサーを実際に導入するには、どのような課題がありますか。